

第2学年 算数科学習指導案

日 時 令和5年10月31日(火) 5時間目

1 単元名「かけ算九九づくり」

2 単元について

≪単元の目標≫

- ・乗法九九(6, 7, 8, 9, 1の段)を構成の仕方と唱え方を理解し, 確実に唱えることができる。

【知A(3)ア】

- ・乗法に関して成り立つ性質を用いて, 乗法九九の構成の仕方を考えることができる。

【考A(3)イ】

- ・既習の段の九九から新しい段の九九を考えようと学習をひろげたり, 既習の構成の仕方を生かして新しい段の九九の構成の仕方を考えようとしたりする。また, 乗法九九の良さに気づき, 生活や学習に生かそうとする。

【態】

児童は, 前単元で, 新しい計算である「かけ算」の意味やそれが用いられる場合, さらに, かけ算の式について学習している。また, 2~5の段の九九の構成の学習を通して, 徐々に「かける数が1増えると答えはかけられる数だけ増える」という「きまり」に着目して, 乗法の計算の答えを求め, 九九を構成してきている。

本単元では, 前単元に続いて6の段以降の乗法九九の構成などを学習していくが, 九九の構成に際しては, 前単元での学習内容を既習事項として活用し, 交換法則につながる求め方や分配法則的な見方による求め方を含めた多様な求め方を使って学習を豊かに進めていくようにしたい。

本単元で大切にしたい数学的活動は, 物の個数を数える際に数のまとまりに関心をもって考える活動である。例えば, 6×2 のレイ図で, 6個のまとまりが2つあると捉えたり, 2個のまとまりが6つあると捉える活動である。なお, 6以降の段の九九を構成するごとに, 乗法九九の表に書き込む活動は, 九九の答えの値の変化に着目したり, 同じ答えの九九が他にもあることの発見につながったりする大事な活動である。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
①乗数が1増えると答えが6～9増えることなどを理解し、6～9の段の九九を構成することができる。 ②6～9の段の九九の唱え方を知り、唱えることができる。 ③1の段の九九の意味や構成の仕方を理解し、唱えることができる。	①既習の乗法を活用して、6～9の段の九九の構成を考えている。	①既習の乗法の活用の仕方を、本時の段の構成でも用いようとしている。

4 単元指導計画

時	ねらい	評価規準		
		知	思	態
1	乗数が1増えると答えが6増えることや被乗数と乗数を入れ替えた九九を活用して、6の段の九九を構成することができる。	・知①	・思①	
2	6の段の九九を正しく唱えたり、適用したりすることができる。	・知②		
3	乗数が1増えると答えが7増えることや被乗数と乗数を入れ替えた九九を活用して、7の段の九九を構成することができる。	・知①		・態①
4	7の段の九九を正しく唱えたり、適用したりすることができる。	・知②		
5	乗数が1増えると答えが8増えることや被乗数と乗数を入れ替えた九九を活用して、8の段の九九を構成することができる。	・知①	・思①	
6	8の段の九九を正しく唱えたり、適用したりすることができる。	・知②		
7	乗数が1増えると答えが9増えることや被乗数と乗数を入れ替えた九九を活用して、9の段の九九を構成することができる。	・知①		・態①
8	9の段の九九を正しく唱えたり、適用したりすることができる。	・知②		
9	被乗数が1の乗法の意味を理解することができる。また、1の段の九九を構成し、正しく唱えたり、適用したりする。	・知③		
10	学習内容の理解を図る。	・知②③		

5 本時のねらい (1/10)

既習の九九の表を作成したり、アレイ図の丸の数を数えたりする活動を通して、乗数が同じ他の段の積の和が6の段の積になることや、乗数が1増えると答えが6増えることなどに気づき、6の段の九九を構成する方法を考え、作成することができる。【思考・判断・表現】

6 本時の学習展開

	学習活動	教師の指導・援助 (留意点)
導入	<p>1 2の段から5の段までの九九の答えを表に書いて、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2の段は、答えが2ずつ増えています。 2×3と3×2の答えは同じになります。 2の段と3の段の答えをたすと5の段の答えになります。 	<p>・九九の表は初めてとなるので、2の段に着目させ、かけられる数とかける数がどこかを確かめる。</p> <p>重点①数学科活動の明確化</p>
展開	<p>2. 本時の問題を捉える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">6のだんの九九をつくりましょう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・交換法則を使ったり、段の和を求めたりすることが、未習の段の九九を作成する手段になりそうだという見通しをもたせる。</p> </div>
	<p>3. 課題をたてる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">6のだんの九九の作り方を考えよう。</div>	<p>重点②個別最適な学び</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ロイロノートの資料箱に、6の段のアレイ図、2～5の段の答えが書いてある九九表、これまでの授業の板書などのヒントカードを用意し、困ったときに見られるようにする。</p> </div>
まとめ	<p>4. 個人追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4の段のときは4ずつ答えが増えていたから、6の段は6ずつ答えが増えると思う。 2の段と3の段の答えをたすと5の段になるということは、2の段と4の段をたすと6の段になるのではないかな。 かける数とかけられる数をかえても答えが同じだから、6×5まではできたよ。6×6はどうしよう。 	<p>重点②協働的な学び</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・仲間の考え方をグループで話し合いながら見て、自分の考えと比べたり、考え方を分類したりする。</p> </div>
	<p>5. グループ交流をする。</p> <p>○ノートやタブレットを見せながら自分の考えを発表する。</p>	
	<p>6. 求めた考え方を全体で交流する。</p> <p>○電子黒板を指し示しながら、言葉と図と式で説明する。</p>	
	<p>7. まとめを書く。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">1つ前のかけ算のこたえに6をたしたり、ならっただんのかけ算をつかったりすれば、6のだんの九九がつかれる。</div>	<p><評価規準></p> <p>◆既習内容や、九九の表の構成の法則、交換法則などを活用し、6の段の九九の作り方を考え、作成している。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p>
	<p>8. 本時のふりかえりをアンケートで行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までと同じ考え方でできたのでかんたんだった。 2のだんや4のだんをたして6のだんをつくったことにびっくりした。7のだんも、同じようにできるのかな。 	<p>重点①数学科活動の明確化</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・アンケートの中で、本日の学習内容が、今後活用できそうかを問うことで、7の段以降の九九を構成する見通しをもたせる。</p> </div>